研究・調査報告書

<table>
<tr><td colspan="2">分類番号</td><td>報告書番号</td><td colspan="2">担当</td></tr>
<tr><td>A-133</td><td>A-169</td><td>14-113</td><td colspan="2">滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門</td></tr>
<tr><td colspan="5">題名（原題／訳）</td></tr>
<tr><td colspan="5">Age at first use of alcohol predicts the risk of heavy alcohol use in early adulthood: a longitudinal study in the United States.
最初に飲酒を経験する年齢が成年前期における暴飲リスクを予測する：米国における長期研究</td></tr>
<tr><td colspan="5">執筆者</td></tr>
<tr><td colspan="5">Liang W, Chikritzhs T.</td></tr>
<tr><td colspan="5">掲載誌</td></tr>
<tr><td colspan="5">Int J Drug Policy. 2015 Feb;26(2):131-4.</td></tr>
<tr><td colspan="4">キーワード</td><td>PMID</td></tr>
<tr><td colspan="4">最初に飲酒を経験した年齢、暴飲、青年</td><td>25107830</td></tr>
</table>

要　旨

目的：

米国、豪州の国民調査をもとにした 2 つの地域相関型横断研究の結果、低年齢からの飲酒行為が始まるに従い暴飲の頻度が増加することが報告されている。本研究では最初に飲酒を経験した年齢が暴飲のリスクを増加させる要因となりうるかを検証した。

方法：

米国で実施された青年の健康に関する国民調査研究(National Longitudinal Study of Adolescent Health)の 1 期、3-4 期に参加した 2,316 名のデータを用い、最初に飲酒を経験した年齢と暴飲(1 機会に 5 杯以上の飲酒)の関連をロジスティック回帰モデルとポアソン回帰モデルを用いた 2 つの異なる多変数解析の手法を用いて検証した。

結果：

最初に飲酒を経験した年齢が 18 歳未満であった群は 21 歳以上だった群と比較して暴飲のリスクが有意に上昇した。交絡因子を調整後も、最初に飲酒を経験した年齢が低いほど、暴飲のリスクが有意に上昇した。18 歳までお酒を飲まないことは成人期におけるアルコール関連に起因する諸問題のリスクを低減することが示唆された。

結論：

最初に飲酒を経験する年齢を遅らせ、18 歳までお酒を飲まない青年を増やすことが一般集団におけるアルコールに起因する諸問題の低減に寄与できると考えられる。